



NEWSLETTER

ドローンX ニュースレター

07 - DEC - 2022

Edition 0016

ジャパンドローンEXPOが福岡初上陸
九州（福岡）で開催

この数年で商用ドローンの活用は拡大し、様々な用途開発による課題解決を実現しつつある。その課題は、都市部での物流問題や災害対応、地方都市における農業支援や過疎地対策など地域によってドローンの活用方法は細分化し、具体的な解決方法として各地域の自治体や産業界から益々期待される様になってきた。課題やその解決方法はその地域によって異な

るため、地域に根ざした商売事例の発表の場が求められてきた。この様に地方都市での開催ニーズが高まる中、社会課題解決を目指し持続的発展のためにスマートシティ構想を推進している福岡での開催となつた。

福岡国際会議場 4階フロアにて開催

12月6日～7日の2日間で開催され、約500の企業の出展や様々なコンファレンスが開催された。また、同月5日に新たに法律が施行されたばかりで無人航空機のレベル4が始まった初日であった為、レベル4でのドローンの活用に関わる出展が多く存在した。ドローンの活用の可能性、レベル4の可能性があふれた展示会になつていた。

AIを使つたユニークなドローン活用法

現在のドローンにAIの操縦ユニットを取り付けることにより、迷子を捜すなんてことを現在実証実験していることを紹介しているブースがあつ

ドローンXもスクールコーナーで出展

裏面につづく



商用ドローンの活用情報や成功事例の発表の場が求められてきた。この様に地方都市での開催ニーズが高まる中、社会課題解決を目指し持続的発展のためにスマートシティ構想を推進している福岡での開催となつた。その物に地方自治体として予算を付け、実証実験に取り組むなど、アイデア次第でドローンに可能性があることを示していた。

4でのドローンの活躍ケースを模索し、トライし、実証実験を試みていた。その中でも、兵庫県などは「そのアイディア」を飛行を組み合わせ、迷子を捜すという試みだ。多くのブースでレベル4による有人地帯での飛行を組み合わせ、迷子を捜すという試みだ。

た。顔認証の技術とレベル4による有人地帯での飛行を組み合わせ、迷子を捜すという試みだ。

から更なる安全を。ドローンパラシュート

無人地域の活用を踏まえ無線給電を行う技術

国産ドローン「蒼天」も出展